

# 社労士事務所における働き方改革

結 社労士ネットワーク

労働保険事務組合 オフィスサポート 結

代表者 山入端 一郎

ヤマノハ イチロウ



# 目次

- 1 事務所の紹介
- 2 導入のきっかけ
- 3 対象業務
- 4 RPAによる開発
- 5 他社製品への移行と復帰
- 6 導入効果
- 7 今後の展望

# 1-1 ロケーション、外観



**沖縄県宜野湾市伊佐**  
(那覇空港からバスで約45分)



**株式会社ネットワーク**



# 1-2 事務所の概要

## > 略歴

年月	内容
2000年	沖縄県宜野湾市伊佐にて社会保険労務士事務所開業
2005年	労働保険事務組合を開設
2018年	職員が11名に増加（RPA導入による影響）
2024年	職員7名、私と妻の計9名で運営中

## > 主な業務内容

労働保険手続き、社会保険手続き、労働問題相談、行政指導の対応、給与計算、助成金申請、特別加入申請、就業規則の作成など



# 1-3 業務内容

> 創業の相談

労働保険、社会保険、給与計算、労働条件通知書

> 労働・社会保険手続

労働／社会保険の新規手続き、保険給付の手続き

> 助成金申請

申請のタイミング、労基法との関係など

> 就業規則作成

賃金規定、育児休業規定、継続雇用規定など

> 給与計算

労基法や最低賃金法との関係、保険料率の変更

> 労働問題の相談

採用から退職、退職後の対応、人事労務管理

## 2 導入のきっかけ

### > 経緯

2017年に某TV番組でRPAの存在を知る



「JAPAN IT WEEK」展示会で実物を見る



NTT-AT社に資料請求を行い、製品紹介を受ける



販売店のサポートを受けてWinAcotor導入



# 3 対象業務

## > 対象業務選定

労働社会保険諸法令手続、助成金申請、給与計算、就業規則作成などの4候補を選定し、最も職員の負荷が高かった「労働社会保険諸法令手続」の自動化に着手した。

## > 労働社会保険諸法令手続の流れ

### ① 電子申請代行



職員が労務管理ソフトを使って電子申請を実施  
(申請自体は容易)

### ② 公文書の確認



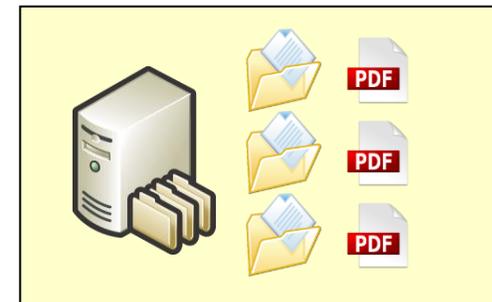
申請が受理されたら  
関係機関のサイトから  
公文書をダウンロード

### ③ お客様へ報告



公文書を印刷して  
お客様に郵送

### ④ 公文書の保管



ダウンロードした  
公文書をサーバーに保管

# (ご参考) 自動化の詳細

① 電子申請代行

② 公文書の確認

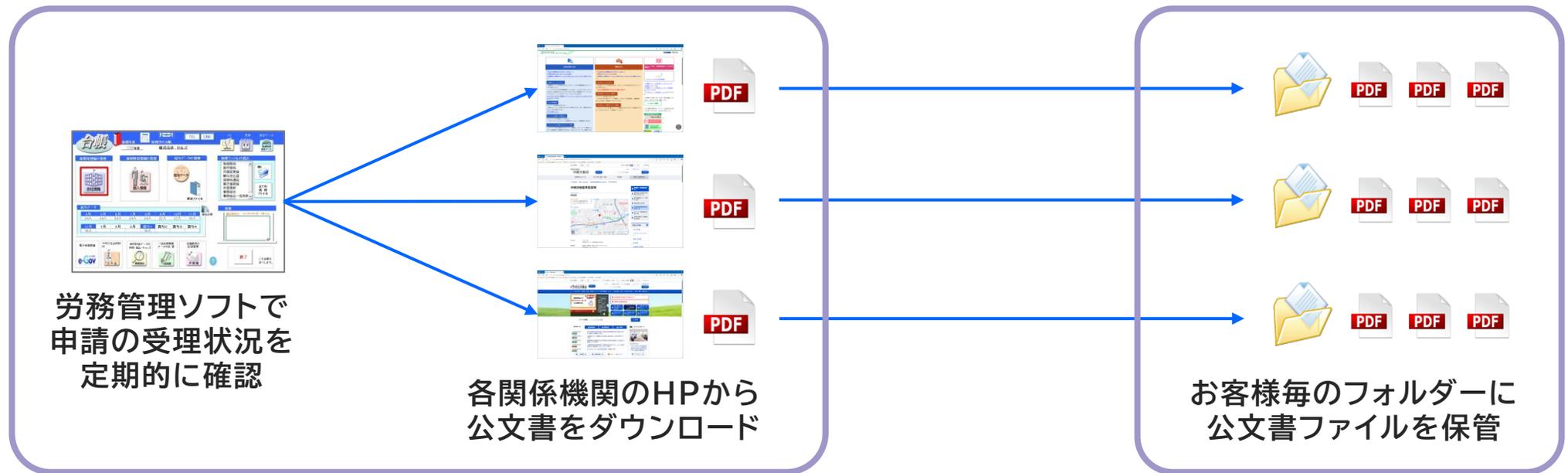
~~お客様へ報告~~

③ 公文書の保管

WinActorで自動化

印刷と郵送を取り止め

WinActorで自動化



# 4 RPAによる開発

## > 外注からのスタート

- 自動化したい内容（仕様）をベンダーに伝えるのが難しい
- 完成後も対象システムのアップデートがあれば都度依頼する必要がある
- 最終的にロボットを内製できないと効率的に運用できないと結論付けた



## > 内製するメリット

- 対象システムがアップデートされてもすぐに対応できる
- RPAの知識が増えると新たな自動化のアイデアが浮かびやすくなる
- ただ、事務所の運営や日常業務を続けながらの開発は大変…



# 5 他社製品への移行と復帰

## > 他社製品に移行

- 業務多忙とアップデート作業が重なったことで、内製でのシナリオ開発に疲弊
- F A X 機器の営業に来たベンダーから Power Automate Desktop の提案を受ける
- シナリオの開発／修正がセットになったサポートプランの誘惑に負け、移行を決断



## > 移行失敗からの再出発

- 既存ロボットの作り直しも含めて新たなベンダーに依頼することとなった
- しかし、1年後も開発作業が終わらず、移行計画は完全に白紙となった…
- 止む無く自身で習熟を試みるが断念し、WinActorへの復帰を決めた

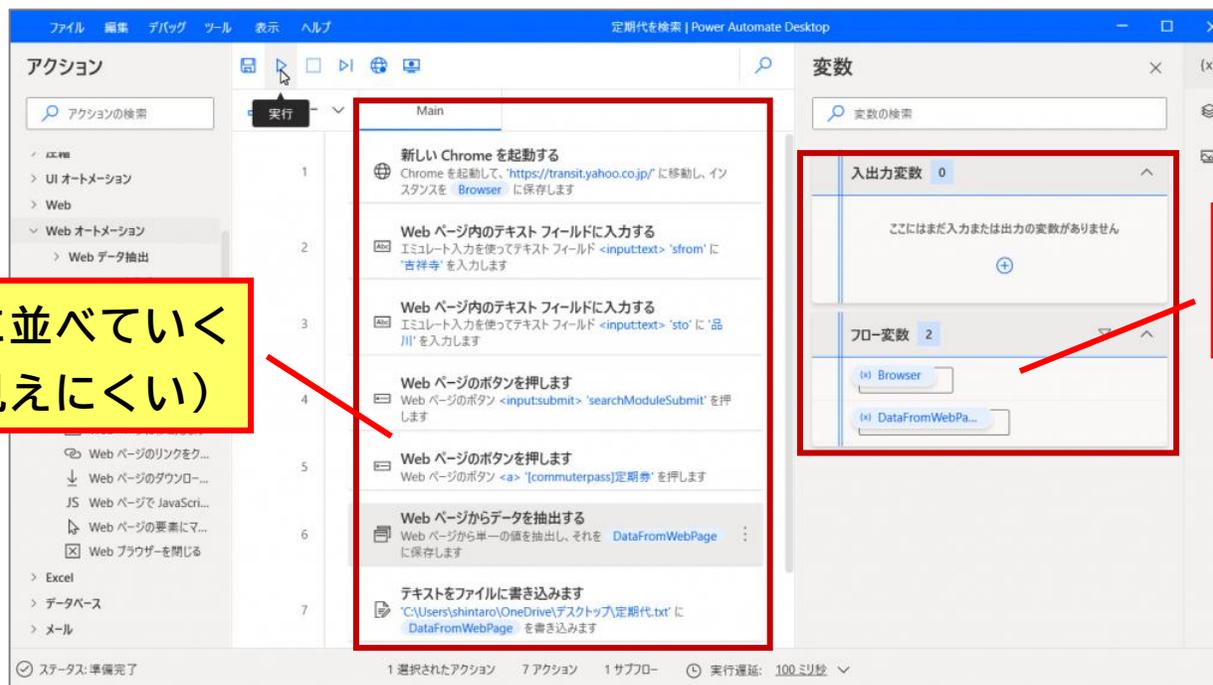


# (ご参考) 移行失敗による気づき

## ➤ 操作方法や設計思想の違い

- フローチャート型に慣れているとコマンド記述型での作成方法に戸惑いがある
- 日本語化されているが部分的に英語で表示される部分や分かりづらい箇所がある
- 色々なことが出来そうだが、触ってみると思っていた以上に難しいと感じた

命令を順番に並べていく  
(全体像が見えにくい)



変数への理解も必要  
(複数種類がある)

# 6 導入効果

## > オフィスが変わった

- ◎ 以前は7名で実施していた業務をRPA化することで現在は3名体制で実施
- ◎ 残りの職員を他業務に振り分けることでより多くの業務量に対応できるようになった
- ◎ 残業時間や繁忙期の深夜作業などが大幅に削減され、職員の満足度も向上

## > 実際の削減効果

- ◎ 1日の削減時間  $5.5 \text{ 時間} \times 4 \text{ 名} = 22 \text{ 時間}$
  - ◎ 1ヶ月の削減時間  $22 \text{ 時間} \times 20 \text{ 日} = 440 \text{ 時間}$
- ➔ 時給1,000円と仮定すると、440,000円を毎月削減



# 7 今後の展望

## > 直近の展望

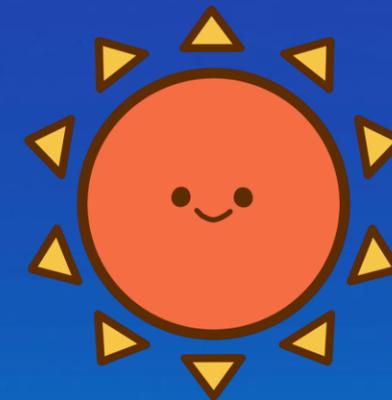
- 私の頭の中に眠っている次の自動化ロボットを早く作成したい（時間の問題）
- 職員が3名になっても事務所を存続できる体制の構築（RPAを主体とした運用）



## > 将来の展望

- 2060年にはアンドロイドを部下にしたい（私は90歳）





ご清聴ありがとうございました

